

I 整備構想策定の趣旨

本市の図書館は、明治45年花田町字守下地内に創立されました。以来、三度にわたる移転を経て、昭和58年に現在の地に中央図書館としてオープンし、今日に至っています。その間、昭和59年には、向山大池町の市民文化会館内に地域図書館（分館）の機能を持った配本センター貸出室を設置して図書館サービスを開始し、また、昭和49年から中学校区に地区市民館を、昭和54年からは小学校区に校区市民館の建設が計画的に進められ、それぞれの施設に図書室を備え、図書館分室として地域の人々に利用されてきました。

このように、本市図書館も移り変わる社会の動きに応じて体制を整備し、図書館サービスの充実に努めてきました。しかし、今日の生涯学習社会の中で、人々を取り巻く生活環境も大きく変わってきており、図書館もまた、多様化する価値観やライフスタイルに応じて、より一層、柔軟で適切なサービスの提供や環境の整備に努力し、利用者の期待に応えていかなければなりません。

若年層を中心に「活字離れ」「読書離れ」がいよいよ深刻な問題となっている昨今、子どもから大人まで人々に親しまれる図書館、いわば、「人々の暮らしに根ざした図書館づくり」が大きな課題となっています。図書館は人が集い、人の輪が広がり、活力や生きがいを育む場でなくてはなりません。それは同時に、人々が文化を発信し、伝え、広めていく場にもなります。図書館の将来像を展望していくには、こうした課題を始め多くの問題を整理して、明らかにする必要があります。

そこで、図書館では、館長の諮問機関である図書館協議会に意見を求め、平成17年2月に「市民の生涯学習の拠点施設となりうる図書館の将来像」としてご提言をいただきました。今回、そうしたご提言や「豊橋市基本構想・基本計画」「豊橋市生涯学習推進計画」等を踏まえ、めざす図書館像実現に向けての考え方や方向性についてここに「豊橋市図書館整備構想」として策定しました。

Ⅱ 本市がめざす図書館像と実現のための基本方針

『豊橋市図書館整備構想への意見』の根底にある「市民が気軽に立寄ることができる」図書館というのは、「開かれた」「親しみやすく」「利用しやすい」、そして「また来よう」というリピーターの育成に向け、利用者の視点に立った図書館づくりのあり方を示唆しています。

また、「行政と市民がともに支えあう」というのは、運営にあたっては行政の一方的な取り組みではなく、利用者の声や活力を取り入れた協調・連携した図書館づくりこそが、生涯学習社会の拠点にふさわしい施設であるということを示唆しています。すなわち、利用者の視点を取り入れた図書館運営に向けての発想の転換が求められています。

このような理念を踏まえ、生涯学習社会の拠点の一つとして本市がめざす図書館像の「基本目標」とその実現のための「基本方針」をたて、具体的な目標を掲げて整備に取り組んでいきます。

本市がめざす図書館像

基本目標

- 1 暮らしに根つき、教養を高め、心を豊かにする施設
- 2 人が集い、活力や生きがいを育む施設
- 3 情報や資料を備え、地域の文化を高める施設

実現のための基本方針

基本方針

- 1 身近にあって気軽に利用できる、親しまれる図書館
- 2 様々な情報や資料が活用できる、生活に役立つ図書館
- 3 地域への理解を深める、地域に密着した図書館
- 4 子どもの健やかな成長を促す、子どもたちを育てる図書館
- 5 常に新しい情報を発信する、まちの文化を創り出す図書館
- 6 みんなの知恵と力がつくる、みんなのための図書館

Ⅲ 整備構想の基本的な考え方

1 身近にあって気軽に利用できる、親しまれる図書館

図書館は、日常生活に潤いと豊かさをもたらすため、常に新しい情報を収集し、利用され、学習の機会やコミュニケーションの場として、生涯学習を支援していくものでなければなりません。そのためには、図書館が身近にあって気軽に利用でき、利用者に親しまれるように環境を整えることが大切です。

豊橋市の図書館サービスは、中央図書館と配本センター並びに市内 74 か所の市民館と、多くの施設で展開され、年間延べ約 40 万人の方々が利用し、約 140 万冊の図書資料が貸し出されています。

また、蔵書数も 87 万冊余を数え、豊富な図書資料を有していますが、全体として開架スペースが十分でなく閲覧できる図書資料の量が少ないこともあって、貸出状況は低迷しているのが現状です。配本センターや図書館分室も、それぞれに問題点を抱えていますが、こうした施設の現状と課題を整理し、「気軽に利用できる、親しまれる図書館」づくりの方向を明確にしていく必要があります。

表1 図書館の現状

項目 区分	中央館		地域図書館		図書館分室		合計	
	館数 (館)	施設面積 (㎡)	館数 (館)	延施設面 積(㎡)	室数 (室)	延施設面 積(㎡)	館数等 (施設)	延施設面 積(㎡)
豊橋市	1	5,655	1	740	74	3,355	76	9,750
類似都市の 平均※1	1	4,220	5.6	4,461	12.5	1,466	12.0	8,328
中核市の平 均※2	1	4,633	5.3	4,768	17.1	1,135	24.4	8,911

※1 豊橋市と人口規模同程度の 20 市の平均。

※2 人口 30 万人以上の地方の中核的都市として法令で認められた都市 35 市の平均。

表2 図書の貸出状況など

項目 区分	蔵書冊数 (千冊)	開架状況		貸出状況		
		開架冊数 (千冊)	開架率 (%)	貸出冊数 (千冊)	市民1人当 たりの貸出 冊数(冊)	蔵書回転率※3 (回)
豊橋市	875	338	38.6	1,416	3.7	1.6
類似都市の 平均	803	518	58.9	2,038	5.2	2.5
中核市の平 均	830	543	63.3	1,849	4.1	2.2

ア 中央図書館

中央図書館は、豊富な蔵書を誇るとともに、他館との相互貸借※4や司書配置などにおける中核的な役割を担い、基幹図書館としての責務を果たしています。

しかし、昭和58年に建設されて以来23年が経過し、図書資料の増加により施設が狭隘化して十分な開架や保存スペースの確保が困難になりつつあります。したがって、施設の有効活用を図るとともに、施設の拡充や整備・充実を図っていく必要があります。また、休館日、開館時間、貸出冊数の見直しなどを中心に利用者サービスを一層充実させていかなければなりません。

イ 図書館分室

本市では、市内全域に図書館サービスが行き渡るよう、身近な地区市民館・校区市民館など74施設に図書館分室が設置され、地域の人々に気軽に利用されています。

※3 貸出冊数を蔵書冊数で割ったもので、蔵書がどの程度効果的に貸し出されているか指標の1つとなっている。

※4 図書館相互で資料の貸借をすることをいい、利用者が求める資料がない場合に他館から借用して利用者に提供する方法をいう。

地区市民館は約 3,000 冊、校区市民館には約 1,000 冊の図書が配置され、2～4 週間ごとに 150 冊程度の図書の入れ替えが行われています。しかし、分室は蔵書数も少なく、司書配置がないなど図書館機能を十分果たしていない状況にあります。

今後は、拠点となる地区市民館※5のリニューアル計画に併せ、蔵書スペースの拡張や蔵書数の拡充を図るとともに、中央図書館とのオンライン化を図り、利用しやすい図書館としてのサービス機能を充実していきます。

また、地区市民館分室の運営については、主事研修の充実やボランティアの養成に努めるとともに、図書館職員による巡回指導を行い、地域の実態に即した分室づくりを進めます。校区市民館についても、地元の学校図書館との連携のもとに配架図書の内容や運営を充実させていきます。

さらに、中心市街地に今後建設されるこども関連施設等に、児童図書等を中心にした図書機能を整備していきます。

ウ 地域図書館

本市には、市民文化会館内に中央図書館とコンピュータネットワークで結ばれ、図書の貸し出しのほか図書館分室への配本機能や小中学校等への団体貸出機能を併せ持つ配本センターがあります。しかし、蔵書スペースや閲覧スペースの狭隘化をはじめ、手狭な駐車場の問題など多くの課題を抱えており、将来的には機能の見直しを図っていく必要があります。

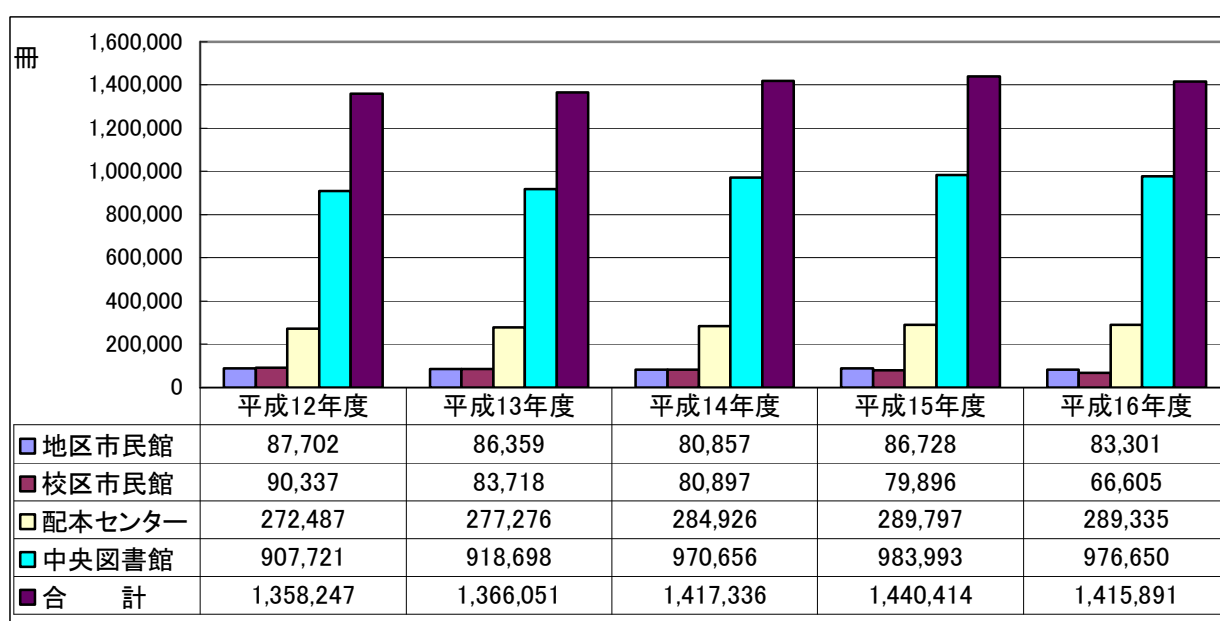
こうした既存の施設を有効に活用し、図書館サービスの充実を図っていくことはもちろんのことですが、その上に立って、図書館司書を配置した地域図書館の整備に取り組むことも重要な課題です。

※5 二川、石巻、南稜、北部、南部、青陵、牟呂、豊城の地区市民館と東部地区市民館飯村分館の9館をいう。

地域図書館は、利用人口や市民需要などを考慮すると、市内に4館程度整備されることが望まれます。しかし、今日の非常に厳しい財政状況や市全般にわたる将来の行政需要を見通す中で、計画的・段階的に取り組んでいくことが必要です。

当面、南部地域への図書館の建設を推進するとともに、「総合文化学習センター(仮称)」の整備計画の中で豊橋駅東口地域への図書館建設をめざしていきます。

表3 貸出冊数の推移



(豊橋市図書館要覧より)

2 様々な資料が活用できる、生活に役立つ図書館

「誰でも」「いつでも」「どんな図書も」利用できるサービスを提供することは図書館の大きな使命です。図書館は、図書資料だけでなく、レコード・フィルムなどといった記録や視聴覚教育の資料など様々な資料を整備し、必要とする利用者の求めに応じていかなければなりません。

市民意識調査によると、年間一度も図書館を利用したことがない市民が約40%いました。「図書館の場所を知らない」と答えた人も少なくなく、「暮らしに根づいた図書館」づくりをめざす時、何よりもまず図書館及びその活動についてPRに努め、図書館を身近に感じてもらわなくてはなりません。

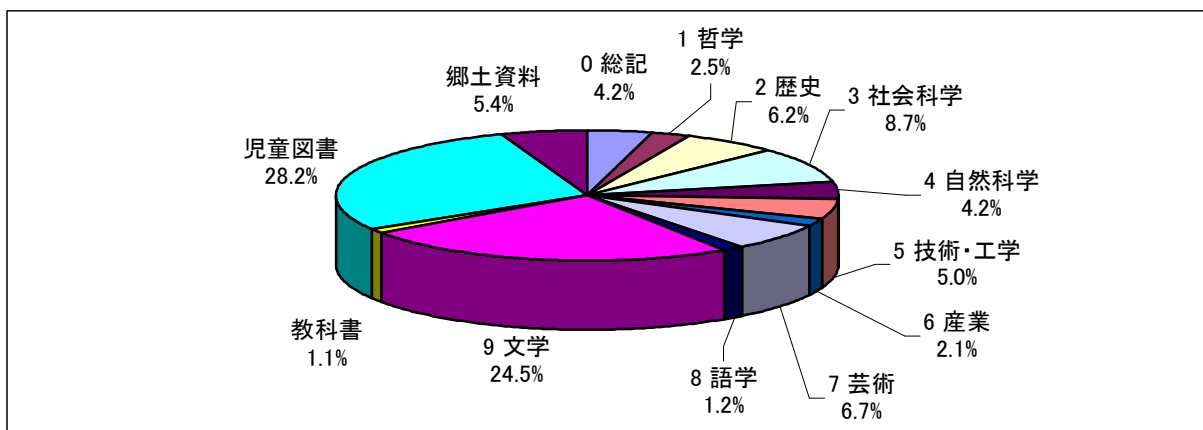
図書館は豊富な図書資料を備えていますが、どのような資料があるのか利用しようとする人々が容易に、また気軽に知ることができるシステムづくりが必要です。現在、利用者開放端末（OPAC）※6を通して図書資料を検索できるシステムがありますが、市民館には一部にしか整備されていないので、拠点となる地区市民館の整備に併せて市民館からも容易に検索でき、利用者の手元に迅速に届けられる検索・予約システムの整備と物流の整備を図ります。また、利用者からの質問や問い合わせに的確かつ迅速に調査して回答できる「レファレンスサービス※7」についても、職員の資質向上と知識の習得を図るとともに参考資料のさらなる充実に努めます。

また、図書資料のほかにCDやDVDの資料を必要とする利用者也増加しています。これら資料の貸し出しにも対応できるように、資料の計画的な収集と内容の充実を図っていきます。

※6 図書館の蔵書目録をデータベース化し、利用者がコンピュータを用いて検索できるようにしたもの。

※7 学習・研究・調査等のために必要な資料・情報を求める利用者に対して、図書館員が図書館資料等に基づく関連資料及び情報を提供する機能をいう。

表4 分類別蔵書冊数



単位：冊

0 総記	1 哲学	2 歴史	3 社会科学	4 自然科学	5 技術・工学	6 産業
36,801	21,813	54,352	76,043	36,483	43,574	18,521
7 芸術	8 語学	9 文学	教科書	児童図書	郷土資料	合計
58,509	10,207	214,361	10,013	246,706	47,542	874,925

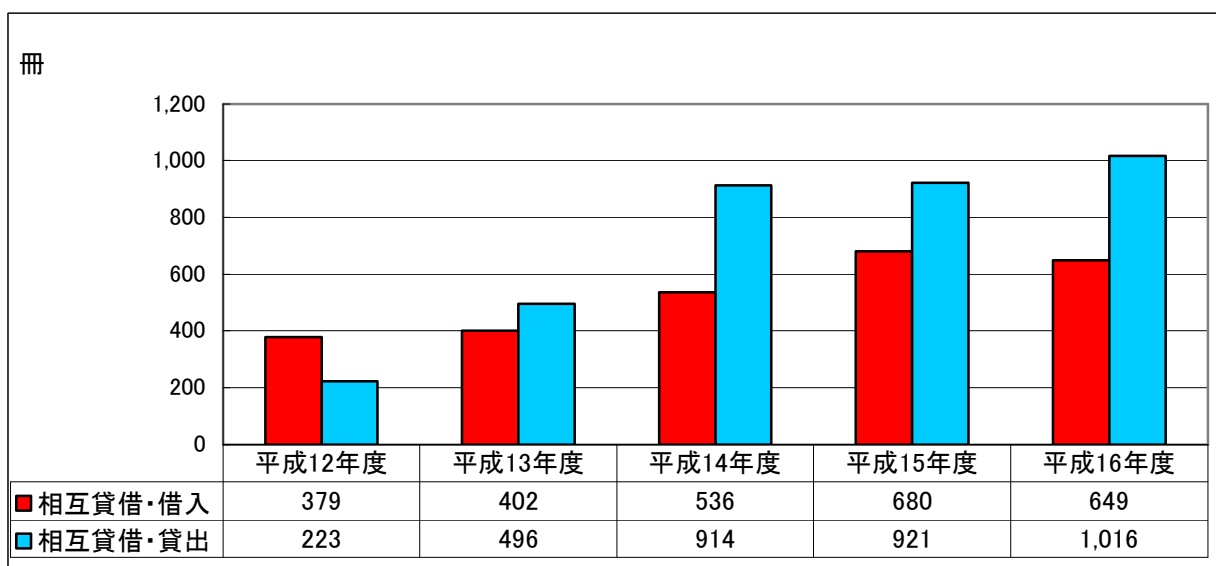
(平成17年3月末日現在)

(豊橋市図書館要覧より)

現在、本市の図書館は、市内の3つの大学図書館と相互貸借協定を締結していますが、大学の図書館には専門図書が豊富にあり、特に専門的な研究や調査を必要とする人にとっては大変便利です。また、国立国会図書館や愛知県図書館、さらに、県内外の公立図書館と資料の相互貸借協定を結んでいます。こうした情報は、まだまだ利用者に認知されているとは言えません。そこで、さらに積極的にPRするとともに、相互貸借のネットワークを一層広げて様々な情報をより容易に取得でき、日々の暮らしに役立てることのできる図書館づくりをめざします。

近年、IT化が進みインターネット予約が普及する中、本市図書館も予約システムの導入を図っていきます。さらに、電子情報収集に対する要求も高まっており、電子機器の充実と併せて情報提供サービスの一層の向上を図っていきます。そして、機器に不慣れな方々に対しては、使用説明などのアドバイスの機会を設けるなどして、電子情報機器利用者の拡大にも努めます。

表5 図書館間相互貸借の推移



(豊橋市図書館要覧より)